

議事録

◎令和2年度第1回高知市男女共同参画推進委員会

日時 令和2年8月11日(火) 午後2時00分～3時57分

場所 高知市役所 本庁舎6階 611会議室

出席者 高知市男女共同参画推進委員 9名
人権同和・男女共同参画課(事務局)

【会議次第】

議題1 高知市男女共同参画推進プラン2021策定スケジュールについて

議題2 高知市男女共同参画推進プラン2016の総括について

議題3 高知市男女共同参画推進プラン2021(素案)について

◇議事1 高知市男女共同参画推進プラン2021策定スケジュールについて

(委員長)

それでは、まず議題1のプラン2021の策定スケジュールの案、これを事務局の方から説明をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局)

プラン2021策定スケジュール案について説明。

(説明内容省略)

(委員長)

ありがとうございました。ここまでで質問、ご意見はありませんでしょうか。

◇議事2 高知市男女共同参画推進プラン2016の総括について

(委員長)

続きまして、議事2のプラン2016の総括について、事務局の方から説明をお願いします。

(事務局)

プラン2016の総括について説明。

(説明内容省略)

(委員長)

ありがとうございました。今の総括受けまして、これはかなり大きな中身だったと思いますが、質問、ご意見はありませんでしょうか。

(事務局)

2016の先ほどの説明で何かご意見等ありましたら。

(委員長)

そうですね。策定スケジュールの方は次に素案というのがあるので、皆さんの経験もある、これまで議論してきたことの総括でもあるので、総括的なものとしてなかなか貴重な機会だと思う

のですが、今ちょっとお考えいただきながら、議論していきたいと思います。

(委員)

ちょっと手始めに私の方からお聞きしたいのですが、プラン 2016 というのは今年も含めてやるのですよね。ということは、この総括というのは過去3年間の、平成30年までですよね。ですから、これが最終総括ではないということでもよろしいでしょうか。

(事務局)

そうですね。

(委員)

例えば平成31年と令和元年、あと2年分残っていて、ある意味5分の3です。60%しか終わっていないということで、これが確定総括になるわけではないだろうとは思ったのですが。でも次が2021の議論をするわけだから、多少中間にしてもこの総括の意味は大きいかとは思いつつ、途中で3年分の総括、なんかあまり聞いたことがなかったような気がしたので確認をさせていただきたいと思います。

(事務局)

実質は令和元年度の分を盛り込めるところまでは盛り込んでいるのですが、3年間の内容になりまして、今回出したのはプラン2021を策定するにあたって、総括も大事だろうということで作らせていただいています。

(委員)

総括というのはとても大事だと思ひまして、今までたぶんそういうようなことをあまりちゃんとはやってなかったような気がするので大事かなと思います。実は3年の分になっているけど、今年の方も文言の中には入っているということですか。

(事務局)

はい。

(委員長)

ちょっと議論の中身に入ってしまったかと思うので、そういうことであるということなのですが、皆さんいかがでしょうか。今やっているのはどうなるのということもちょっと。とりあえず皆さんとして総括的な文章というのは久々なので、ご意見ありましたらお願いします。ここで全部終わりということはないですけども、次のプランとの関係があるかと思ひますので、どんな分野からでも構いませんので、ぜひお願いしたいと思ひます。ここで出さなかったけど意識は持っていて、後々の議論の中で出てくるというのもありだとは思ひますが。

(委員)

一ついいでしょうか。施策評価の中で28年度から3年間、初年度との比較があるのですが、数値がプラスになった部分、マイナスになっている部分というのもあるけど、これだけ見るとせっかくの活動が前に向いてないのではないかという捉え方をしてはいけないと思ひますので、たぶん内容によっては良くなったけど、この部分が弱かったから数字的には平均ですよね。そういった部分の説明というのが、どこかに提示できているのか。課題の中に含まれているのかもしれないけど、少しそこが一般の方が見たときに分かれればいいかなというような、意見というか質問なのですが。

(委員長)

次年度、経年事業でマイナスになっている場合、ただ見ると事業の成果がないようだけれども、いろんな理由もある、人口減だったり、色々あったと思うので、そういうことについてはとなってくると、ここは総括表なのでこの中にはないかと思うのですが。

(委員)

いいですか、その件に関して。これまでは、単年度（プラン期間の中途）の評価であったため高すぎたのではないかと思っています。プラン期間の終盤になってきて、これだけ未達成の項目が多いのに、この3年間4年間何をやってきたかということをきちんと評価しないといけないと思います。先ほど未達成でしたという報告でしたが、市民に公表している計画なので、本来はこれほど未達成があったらいけないのではないかと。5年間のプログラムを作って、5年間取り組んできて未達成がこんなにたくさんあると、市としての取組が不十分だったのではないかというふうに私は思っています。

今まで単年度、単年度で評価してきて、単年度では一生懸命頑張っているなという評価であったと思いますが、最終年度を迎えて総括したときに、我々はどう評価したら良いのか、これほど未達成があるのに、良くできましたという評価を我々委員ができるのか。達成度をみて、なんでこんなに高い評価したのですか、全然できてないじゃないですかと言われたときに説明ができない。先ほど委員さんが言われたようにマイナス評価になっているのはどうしてかというようなことも問題ではあると思いますが、未達成の施策は低い評価しかできないのではないかと考えています。

それからもう一点。個別事業が実際のプラン2016の目標値達成と必ずしもリンクしてないのではないかと。個別事業は皆さんとても高い評価をされていますが、結果的にはプラン2016の数値につながっていないということは、個別事業の設定自体に問題がある。個別事業を一生懸命やりました、A評価ですと言われても、その評価がプランの数値目標につながっていなければ、何のための事業だったのかとなってしまいます。すべての事業は必要だと思うし、職員は一生懸命やられていると思うのですが、プラン2016の目標達成にきちんとつながっていないのは問題だと思っています。

意識調査の結果をみて、一番大きな問題と思ったのは、高知市の男女共同参画推進プラン2016を知っていますかという質問に、9割の方が知らないと回答していることだと思います。このプランの達成に向かって市民が一緒に取り組んでいきましょうねという意識がもう少しあれば、このあたりの数字ももっと改善できる部分はあったのではないかと。条例の中の19条に広報をしっかりとしましょうとあると思いますが、それが不十分だと言わざるを得ない。こういう取組をしていますというのが市民にうまく伝わっていないので、こういう結果になってしまっているという見方もできるのかなというふうに思っております。このあたり取り組まれた市としての意見をお聞きしたいなと思うのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

そもそも目標値の設定のところでどうやって決められたかなというのがちょっと分からないのですが、すごいハードルが高い数値とかもありまして、これはなかなか、これまでの動きとかみてもちょっと高すぎるのではないかと、集計をしてみても正直思いました。

(委員)

そうですね。目標達成が困難すぎる値を設定すると結果が出ない。5年間で必死に頑張れば達成できるレベルの目標値を設定しないと今回のような結果になってしまいます。逆に下がっている数値もあるというのは、これは全く取り組んでいないと思われる。非常に我々も悩むところで、結果からは高い評価は出せないし、でも職員の皆さん頑張っているから、そこは応援してやりた

いという思いもあるのですが、ただこれが市民の目に触れたときに全然達成していないのに、こんな高い評価になるのか。学校の通知簿でいうと、1か2よねっていうところを3とか4に評価できるかっていう問題があります。そのあたりがなんとなくこうモヤモヤしているので、市としての評価基準で、数値より各事業の頑張りを評価してくださいというのか、単なる数値目標で評価してくださいとなるのか、整理が必要かなと思います。

(事務局)

文言で分けられたらよいのですが。点数でやっているのです。

(委員)

結局、今回の評価が高いということは次年度へつながらない。これでよしとした場合に、次年度の目標が設定しにくくなるだろうと。課題があるから次年度の目標に反映し、設定できるのですけど。未達成でもOKだったら別に無理にやらなくてもいいとなるので、そのあたりはきちんと整理しなければいけないと思っています。

私は会社勤めをしていましたので、数値目標にあげた以上は達成するのが当たり前だろうと、達成できませんでしたという報告をされて、でもよく頑張りましたねとは、とても言えないと思っています。

(事務局)

評価指標をあげる項目と数値目標をもうちょっと時間をとって審議させていただいて、固めていくのが今のところできることかなと思います。設定をいまさら変えられない。最初のところがほんとに肝心だなと思いました。

(委員)

各事業とプランとがどうつながっているのかもよく分からないこともありますし。その割には次のプラン作成まで期間がないので、そのあたりどのようにまとめるのかなと。事務局も大変だと思いますが、今回も厳しい意見出させていただいています。

(委員長)

ありがとうございます。いえ、大事だと思います。

いかがでしょうか。総括というのをさせていただいたこととか、数値目標はこのプランが始まったときからあったのかもしれないけど、今回のように連動させてかなりしっかりと個々の目標とあわせてやっていくということは今までそんなになかったもので、逆に言えば、数値目標を決めたことと、その決め方には問題があったと思います。

私もちょっと書かせてもらいましたが、事務局の案があまりにも高すぎて無理でしょうという、例えば最初の意識のところは50%と掲げられ、私は当然、今13.4%で、日本全国でも意識という一番変えづらいところなので、それは難しいのではないですかと言っても、事務局は変えなかったもので、逆に言えばそれだけ思いが強かったということだと思いますけど、やっぱりそれを実現するための方法論というところの議論とか実際の行動というものの乖離はあったと。あったというか、今もあるのではないかと思うので、そういうことに気が付いたということは逆に言えば、すごい成果だったのではないのかなと。

数値目標は今までやってきて慣れていないわけではないので。私たちも数値目標をあげるときには、ある意味過去のこともあげつつ、1年2年でどのくらいいけるかなと考えつつ、あまり消極的ではいけないけど、人間の労働ですからやれる範囲もあります。それを考えながら、やれそうの中、中より上くらいとかと決めたりするところがあります。

今回、実は国の方が、女性の比率30%という案をあげたけれど、20年度に達成するという目標

を下げました。国の方がそんなことをやっているの、ある意味これの大型版といったらいいか、国の方がもっとかっこ悪いような気がします、国ですらできていないというくらい厳しい状況だとは思いますが。

だからそういうことを自覚したということ的成果にして、今後やっていくという点で、今まで全然ダメだったのではなく、徐々に良くなってきていて、数値目標と個々の目標をある程度リンクさせて、単年度ごとにも評価したときにやっぱりそう簡単にいかないよねっていうことが分かったことが大きな成果なのではないのかと。

こんなことを言ったら、市民からは今頃そんなことをやっているのかと言われるかもしれないけど、まずそこを自覚したということは大事なんじゃないかなという気が私としてはするので。このプランの流れからいうとやっぱり数値目標を立てる以上、それをどう達成するかということを考えなきゃいけないし、じゃあ立てるときに何が必要かという議論が、あるいは設定点とかが大事なのではないかということだと思います。

そういう点でいうと、今回出されている総括と個別事業の実施状況にとっても乖離があるというところにやはり問題点がある部分があると思うので、どうしていくかはともかく、徐々に改善されてきて問題点がはっきりしているということはプラスとして捉えて、ダメだったじゃなくて確かに乖離している。じゃあそれを変えていったらいいのではないかというふうにしていったらどうかというふうに思います。

ですから、時間がないといっても必要な時間はとって、プランを作った方がいいかなというふうには、私としては思いますけれども、自覚されたらその部分はちょっとずつ良くなるかなと思います。

もう一つはちょっと感じたのですが、数値目標をあげるときに、毎年状況が分かるものはいいいですけど、意識調査は5年に一遍だから、分からないでやってきていて突然出てきたら、数値がとてつもないよなということに対応できなかったと思うのですが。とても大事だから5年に一遍でもこの貴重なものを大事にしていくべきかと思うのですが。どんな数値を選ぶかっていうこともとても大事かと思いました。皆さんどうでしょう。

(委員)

プランの目標値の設定は、5年間と決まっているのですか。

(事務局)

そうですね。プランは5年で、3年とかいう計画もあります。

(委員)

5年で固定するのは長すぎると思います。5年前のことと今の状態、例えばコロナの感染拡大といった予想できなかった事象が発生するように5年間で社会情勢大きく変わってしまうこともあるので、ちょっと期間としては長いような気がします。どうしても5年間でやらないといけなないのであれば、先ほど委員長が言われたように数値目標を社会情勢に合わせて多少変えていくっていう柔軟さも必要。こういう理由だからこのままじゃ達成できない、現状からみると、このくらい落としますということもありじゃないかと思うのですが、どう頑張ってもこのままでは無理だろうっていうのが分かったら職員のモチベーションも下がるのではないかと思います。

一番大事なのはなぜこの目標を立てたのか、なぜこれが達成できなかったというのをきちんと分析したうえで、2021の新たなプランに反映していかないと、同じことを繰り返してしまうような気がします。

誰の視点でプランを作成しているのか、市役所の中で高い目標が求められているのか、市民向けは高い目標の方がアピールできるとなっているのか分からないけど、ある程度達成できる目標、頑張らないといけないけれど達成できる目標にしないと、職員がいくら頑張っても追いつかない、

徒労に終わるようなむなしさだけ感じてしまうのではないかなという気がします。

でも、目標の中には、例えば女性委員がいない審議会数というのがありますが、前回は言いましたが、市長がやれといったら達成できるのではないかな。目標を達成できていない状況を市長が把握しているのかということも、ちょっと気になるころではあります。こんな状況であと1年しかないのにどうするのだというお叱りをうけるような状況であると思うのですけどね。繰り返しますが、今回は高い評価は出せない。そこから反省点をきちんと分析し、市民の皆さんにこういうことで達成できなかったの、今度の2021のプランにはこういうことで取り組んでいきますという姿勢を示す方が、委員長が言われたように非常に大事なことだというふうに思います。

(委員)

やっぱり国もああいうふう目標値を変えることは、普通あんまりないですよ。やっぱり弱かったという、首相は色々口では言っていましたが、実際の取組そのものが難しいということがある。エネルギーのかけ方とかお金のかけ方とかもあると思うのですが、市の他の行政とのバランスでやっていますと言わないといけない立場も分からないではないけど、施策そのものの持っている個性というのが、ストレートに分かってもらった方が、逆に言えば、ここだけこんなにバラ色になるわけがないよねっていう話ではあるかと思うので、担当課だからと言って、去年よりすべて上がっていますとかできない分野もあるし、というのをただできないというのではなく、原因とか大きく改善していく方向性を持って行うというのがいいのではないかなというのが正直で、その方が市民としても納得がいくのではないのでしょうか。

皆さんが感じていることを、ある意味市民はもっと、あるいは同じレベルでどこかで感じているんじゃないかという話だと思います。結局なかなかうまくいかない部分もあるよねというところは。だから税金もらって仕事しているわけだから成果をあげなきゃいけないという気持ちは分かるのですが、過去のことは変えられないので、それをいかに未来に生かすかという視点で改善をしていくというふうにしたらどうか。色々問題はあるけど、問題がはっきりしてきた。見える化する点で指標というか、数値目標もなかったり、あるいは整合性をとってないから、欠陥が見えづらかったのかもしれない。けれど、見えてきたっていうのはとてもすばらしいことでもあるのかなと。

改善すべき課題が見える化されてきていて、そうじゃないものもあるよねというのも分かってきた。それ自体が前進であると捉えて、一步一步やっていくという始まりにしたらいのではないかなと思います。

私、行政のテーマは10年計画と5年計画があるというのを他の分野でも聞いたのですが、それ自体はそうそう変えることはできませんけど、分野によっては5年が長いという議論があって、3年目とか途中で1回中間総括とか、見直しというのを入れているような事業があるというのを他の委員会とかに参加すると聞きます。そういった点で、何年にするか別にして5年10年というのは大きな行政の括りの中で、ここだけは3年にしてくださいとか2年にしてくださいっていうのは、簡単ではないかなと思いますけど、5年の括りとしても途中で中間的な総括をして、場合によっては変更することもあるみたいにして少し柔軟に、コロナのこともあるし、この時代ちょっと先読めませんよね。特に今年2年なのか、10年なのか、もう何年なのか言える方もいないのかもしれない。こういう議論であつたらそういうことも少し含みを持たせて、5年だから絶対変えられませんが、そうではなく場合によってはいうようなことも、プランを考へるときから入れておいたら、多少可能な部分もあるのではないのでしょうか。ただ、もちろん決めるときはかなりしっかりと考える必要があると思います。

(委員)

職員の方は、プランを一回担当したら5年間続けることできないのですか。

先ほど事務局が言われたように、なぜこの目標を制定したのか、達成していないのか良く分か

らないというようなことがないように、後任者への引継ぎも大事ですが、そのあたりから考えるときちゃんと生き字引じゃないですけど、これはこういうことだと説明できる人が残っておくべきじゃないかなという気がします。今回皆さん変わられて、いきなり未達成でこれどうするみたいな状況になっているのではないかと思います。

あともう一点だけ。アンケート結果、ものすごく皆さんにとってはショックな意見だったと思うのですが、少数ですが「こんなアンケートにお金を使うのならもっと別のことにお金を使ってください」「何がしたいのか分からない」「聞いてどうするんですか、何が変わりますか」という、こういう言葉を投げかけられるというのは、プラン 2016 が全く浸透していないから、何のためにアンケートをしているかも分かっていないということだと思っております。このあたりが大きな課題だと思います。みんなが協力しようという、アンケートを何のためにやっているかというのもきちんと分かる、プラン 2016 に基づいたアンケートなのですよということをきちんと分かっていただくということがものすごく大事だと思います。

(委員長)

いかがでしょうか。たぶん先に進むことで議論というのか、次はどうなっているんだろうっていうときに出てくる部分もあるかと思います。先へ進む中で、戻るということもあるかもしれませんので、少しいきましょうか。

(委員)

私も似たような意見ですが、7つ目標があって5つ達成していないとなると、事務局だけでなく、たぶん市民は高知市男女共同参画推進委員会があるのになんで推進していないのだと、いうことで結局は私たちに責任があるような感じに市民の目にはうつるのではないかとこのように思っています。なので、私は事務局だけを責めるのではなく、自分たちが事務局と一緒に何をしたらこの目標の達成ができるようになるのか。

私はいろんなところに顔を出して、例えば防災のほうでは、5年前と今とでは随分女性の活躍ぶりが違って、防災士をいうのを私はとっているのですが、防災士じゃないと集まらないような委員会があって、女性たちが地域でもものすごく活躍していて、これは3年くらい前から活動しているのですが、そういったものを女性たちがリードして、南海地震がきたときにどう動くかということシュミレーションしています。これはもう5年前から大きな進歩で、それなのにここがマイナス0.14というような結果が出ているというのは、どうして肌感覚として推進しているのに、どうしてかと思うと、やっぱり数値目標という部分が女性の役員の比率とか、どう感じていますかとか、どんな目標でも100%というのはほぼ達成が不可能であるというふうにも思います。

それから役員に女性がいる自主防災組織の割合。役員にいらなくても、もしかすると中間管理職的なサブ位には女性はかなり動いていて、男性の方を据えて、なんとなく実質動いているのは女性というのはたぶん相当いるのではないかと思いますので、そういうものが何か計れないかなと。そうしたら、例えば防災についても女性はもっと活躍しているぞということがお分かりいただけるのですが。この目標の立て方というのが、もうちょっとこう現実に即したようなものがないかなというふうに考えたのですが、数値となると、非常に項目を立てるのが難しいなというふうに思います。

それから、意味は目標値にはないのかもしれませんが、国際的なジェンダーエンパワーメント、その数値の中では、会社の女性役員の割合とか理系の女性の科学者の割合とか、そういった今流行りのリケジョといわれる人たちがどういうふうに活躍しているか、そういったものがあると思います。うちの会社も含めて、それから絶対に男性社会と言われていた全国のテレビ局、放送局、それからマスコミという世界が少しずつ変わり始めています。私も男女共同参画の条例を10何年前に委員長と一緒に作ったときには、女性が管理職になるということが非常に難しいと

いかそんな時代で、なぜテレビ局でというふうなことも考えていたのですが、なんとなく男女関係なく、女性たちがリーダーになるというのを最近実感してきています。そういうことを考えると、目標の選び方というか、そういったものも今後考えていけないとか、現実に即したものにすれば、もっといい結果というかそういうことに結び付くのではないかというふうに考えました。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。この総括は大事なことだと思いますが、それに対して、今回推進委員会で次のプラン、次に5年後にまたこういった議論があったときに、少しはかなりいい方向になる可能性も出てくると願うとして、プラン2021の素案についてということで、事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

◇議事3 高知市男女共同参画推進プラン2021(素案)について

(事務局)

プラン2021素案について説明。

(説明内容省略)

(委員長)

ありがとうございました。それでは皆様いかがでしょうか。今、ご説明いただいたようなことなのですが、将来像のテーマが「ジェンダー平等社会の実現」。以前、男女共同参画という言葉ではということで、そうじゃない言葉を使いたいということには、社会というか政府の方が反対していたというふうに聞いていたので、こういう形でできるようになるのであればとてもいいかなとは思いますが。どうなのでしょう、LGBTのことを考えると、男女だけの表現でいいのかなという気はちょっと私としてはしましたが。個々の文言の取組の方向性とか、具体的な内容の文言については若干気をつけないといけないところがあったとは思いましたが、皆さんいかがでしょうか。シンプルで分かりやすくなっているようにも思いますし。ここはちょっと違うのではとかありましたらお願いしたいと思います。

(委員)

個人的には、「ジェンダー平等社会の実現」というのはいいと思います、すごく。基本目標の中の男女共同参画というのは、どうしても法律的な問題の中で仕方なく入れているのだろうなというふうに、私が勝手に思っているのですが。できるだけそういうジェンダー平等社会の実現というのであれば、極力というか言葉を選んで、法律上の部分がどうしても出てくるのでいたしかたない部分はあると思うのですが、極力そこを避けるというか、できるだけ市民の方に分かりやすいような形にしながら、男女共同参画という言葉自体もなかなか難しい部分もあったと思うので、そこらあたりは論議がされたのかなと。何か経過がありましたら。

(事務局)

条例の名前が男女共同参画となっていますので、それからプランの名称にはなかなかちょっと変えると色々弊害が出てくるので、タイトルの方は変えない方向で、ただし自由にできる内容のところは、極力男女共同参画という言葉でジェンダー平等というのに言い換えていけるとところは言い換えていこうということで、内部で話しました。

この目指す将来像のところ以下、基本目標や取組の方向性の文言のところは極力ジェンダー平等を取り入れていく方向で考えました。

(委員)

これすごくいいなとは思いつつ、社会の変化だなというか、別に問題だと言われてないのですよね。以前、ジェンダーという言葉を使うこと自体ものすごく制限されていました。わざと違う言葉を使って表現していたのです。男女共同参画条例もほんとは男女平等条例とか、国の法律も男女共同参画となっていますが、雇用機会均等法あたりから、男女平等とかそういう形でいきなかったのですが、国が絶対にそれを使わせなかった。それで、SDGsが出てきたらジェンダー平等がOKということなのか、あまりにも何か対外的なことに弱くて、国内の議論というのは軽視するというのはちょっと許せないなとは思いますが。全然平気で使えるのであれば、どんどん使ったらいいと思いますけど。ジェンダー平等という方が通りがいいのかもしれないけど、やっぱりジェンダーについてはカタカナなので、ほんとにみんなに分かってもらえるのかなというところはちょっと懸念があります。カタカナだったらソフトでいいよねっていう感じで今、日本語で言える言葉をわざわざカタカナで言ったりしますよね。ソーシャルディスタンスにしても。定着したらいいし、その方がいいというか、ジェンダーもジェンダーレスとかいう言葉があれする中で男女平等とかの持っている重たい面をあまり感じさせないというようなことがあるのかもしれないのですが、分かりやすさを狙うのであれば、ジェンダー平等社会の実現という表現がいいのかどうかは、私としてはちょっと留保をつけておきたいなと。これで皆に分かってもらえたらいいのですが。男女平等社会の実現でも、むしろその方がいいという人も多いのであれば、そっちの方がいいかなという気がします。共同参画がなぜOKだったかといったら男女平等ではないけど、参画のところだけは男女平等で男女っていう形にしようよっていう非常に制限されたところだったのでOKになったといういきさつがあって、運動をしている人たちとしてはすごく不満だらけだったのだけれども、何もできないよりはちょっとでも実現していった方がいいだろうっていう背景もあるのです。そのあたり市役所内部ではもうOKになってきているのでしょうか。SDGsの関係でその方が押し通し易いというならというふうに、私としては聞いています。でも、であれば注釈をつけるなりなんなり、SDGsにしてもそれだけ書くというのであればすごく不親切なので、必ず注釈をつけるとかしていかないと、国へのなんとかじゃなくて、市民にやっぱり分かってもらうということをベースにしないといけないのではないのかなというふうには思います。ただ内容としてはいいと思うのですが。

(委員)

これを見ていて、まずいいなと思ったのは、2021の基本目標の2番。DVやハラスメントという部分です。ハラスメントの方がやはり今のところ世間一般に浸透しているというのがあって、DVの方は当然皆さん知ってはいるのですが、普段結構使わないのです。DVという言葉を使う人は少ない。その分ハラスメントという言葉は結構使われるようになってきている。そういう意味ではここにハラスメントという言葉が入っているのが、ちょっとインパクトがあるなというのを感じました。

逆に2016の5番。子育て・介護分野における環境の整備というのが、施策項目にあがっているわけですが、2021の方にいくと、具体的な取組内容のところまで、子育てとか介護という単語が出てこないのです。実際問題、子育てと介護というのは、市民にとっても非常に分かりやすい部分だと思うのです。それが結局、例えばチラシとかパンフレットの的なものを作ったときに、具体的な取組内容までみてもらえるのかどうか、ということ考えたときに、ちょっと弱いかなというのを感じました。

先ほど言ったように基本目標の「～しましょう」という表現は非常にいいと思うのですが、介護と子育ての部分が3段階目まで来ないと見えないというのが、ちょっと気になります。

(委員長)

ありがとうございました。

(委員)

「ジェンダー」と「SDGs」これが私たちはもう見慣れているのですが、高知市民が聞いたときに、ジェンダーはたぶん相変わらず男女平等の何かだろうなというぐらいしか、たぶん注釈をつけないと。ジェンダーというのは、生物学的な性差ではなく、社会的な性差のことであるということ、どこかに書かないとおそらく分からないだろうなと。なおさらSDGsの方もこれは国際的な、さっき説明されたようなことがどこかにないと、下手したら市の議員さんも中には分からない人がいるかもしれない、それくらいの言葉じゃないかなというふうな気がしました。

2016よりは字が少なく、まず字が多いと、今色々SNSでうちなんかもよく発信をしているのですが、字が多いものは若い人たちがほとんど見てくれなくて、ビジュアル的に目にうつるもの、これがまず若い人たちの層にはささるといわれているので、ビジュアル的にはSDGsの17の目標があるので、分かりやすいなという感じはします。

ただそれぞれの語彙が市民にとっつきにくそうなので、これでいうこれはこれをいうんですというのがあればいいなというふうに思いました。

色々今まで意見が出ていますけれども、私はサラリーマンをやっている会社の関係で、とても若い時から男女の差というのを感じてきました。その中で一生懸命死ぬほど仕事をして、あんまり仕事をしない男性の方が上にいってしまうということが、どこの職場でもあったと思うのですが、そういうこともほんとにつぶさを感じながら、殻をやぶるように、次の世代はそうならないようにと思って。その指針になるのは、高知市男女共同参画推進プラン、こういうものがあって、高知市の企業なりに男女共同参画が進んでいけばいいなと思って、私はこの会に最初のほうから参加をしてきたので、ぜひそういう指標になるようなものになればと思います。

(委員長)

ありがとうございました。

(委員)

国の動きというところで、平成28年に女性活躍推進法が施行されて、中小企業のほうでは義務だけだったのですが、もうちょっと年も経ちました。この2021の取組の「一人ひとりがワークライフバランスを実現できる社会をつくりましょう」3番のところなのですが、働く場におけるジェンダー平等の推進、女性職員の職域拡大を推進しますとあるのですが、法は色々改正されるのですが、やはり女性を推進していくための企業の方で、そういう推進のための策定をしないといけないというところまではいっているのですが、実際のところ、策定されている企業というのは少ないかと思います。策定されて労働局とかに提示して、報告されてホームページとかに載っている企業もあります。一般的に法の改正、女性に対してこういう推進の法律が改正されているのですが、あまり浸透されてなくて、こういう推進の仕方を企業に対してというか、高知市のホームページでもいいですが、策定するまでに至っていない現状があると思うので、その辺を取組内容にお願いしたいかなと思います。

それともう一点。話が変わるのですが、2016の施策項目の中で気にかかったところなのですが、子育て・介護分野の環境の整備のところ、数値目標、乳児の家庭訪問率です。ここが目標100%に対して、令和元年も97.4%ということですが、一般的に私なんかは、必ずといっていいほど乳児の家庭訪問は全員されているという認識があるのですが、何か事情はあると思うのですが、ここはとても重要じゃないかと思ひます。結局何人の方に訪問できてないとか、その辺がちょっとこの数値だけでは分からないので、私自身が気にかかったところですが、やはり不安に思われている母親はいると思いますので、その辺またお願いしたいと思います。

(事務局)

訪問不成立は 59 件。転出等が 11 件と、訪問拒否が 11 件、来所したことで家には行かなかった、それから長期で里帰り、入院中、亡くなられたというのも 2 件あったみたいなので、そういうのが不成立 59 件の内訳です。

今年の質問をいただいていた分で、それに対して課の方から報告が出ているので、皆さんにお送りしている資料の中にあります。

(委員)

はい。

(委員)

後半がとても大事じゃないかなと。私も気になってそれ以上聞かなかったのですが、転出とかそういうときに限ってというか、よく虐待の問題が深刻になったりするじゃないですか。やっぱり訪問できない色々な事情があるところこそ、やらなきゃいけないような場合が潜んでいる可能性が多いかなというふうには思うので。こうでしたって済ませるのはちょっとどうなのかなって。他の支援に必ずつなげるとか、あるいは状況を追跡するとか、そういうような仕組みを作らないと、狭間でやっぱり見逃されてしまうというのが出てくるのではないかなとは思いました。

あとちょっと元に戻ると、大きな取組の素案の中で基本目標の 3 のところは分かりやすいような気はするのですが、さっき出てきた子育てや介護のところを含めると、この項目名、基本目標名でいいのかなのかなというところも含めて、広さが十分に伝わるのかなということもあって、このあたりは少し考えていただきたい。ただこう取組の方向性に子育て・介護をあげるだけでいいのか、それではちょっと少ない気もするし、そのあたりは少し知恵の寄せどころだと思います。

4 番のところここだけは男女共同参画になっています。ジェンダー平等という言葉はあまり基本目標にはあげないという方針なのかなとは思ったのですが。

(事務局)

ここは地域という項目なので、ちょっと全体的に高齢者の方が多いのかなと。分からないなりに考えた結果なのですが。

(委員)

そうするとちょっと退くわけですか。それはまずい。そこでこそやっぱり委員にもなってほしいし、そのあたりちょっと弱いところですよ。そこにこそ、ジェンダー平等とか男女平等と入れないといけないのかなというふうには思ったので。入れたからって言葉の問題ですが、あまり後ろに退く必要はないように思いました。ただ分かりやすさとかそういうことであれば、そうそうあまりこだわる気持ちもないのですが。もちろん実質的に参画することは大事ですけど、やっぱりトップにも、企画・立案のところに入っていくということはもう一遍出さないと、とりわけ高知は非常にいろんなことが考えられますよね。やっぱりもっともっと女性の声を入れないと、ほんとに大変なことになるというふうには思うので、そこは重視してほしいなというふうに思いました。

(委員)

個人的には、ジェンダー平等という言葉をなんでもかんでも使うのは、なんとなく分かりにくいなという気がしています。例えば家庭におけるジェンダー平等と言われても、ここにジェンダー平等という言葉いるの？と。これは夫婦・家庭の問題じゃないかと思って。夫婦で子育てしましょう、協力して子育てしましょうという。先ほど子育て・介護分野におけるという話が出てきたのですが、そういうのを直接伝えないと、家庭におけるジェンダー平等と言ったら、堅苦

しい話になってくるのかなという気がします。

働く場におけるジェンダー平等も、一般的には男女雇用機会均等や男女共同参画という言葉が使われており、男女でいいのではという気がします。

それから、地域活動におけるジェンダー平等も、ここも先ほどの説明でいうと、地域におけるいろんな活動も男女協力してやりましょうねという意味合いを出した方がいいのではないのかという気がしています。男女平等とジェンダー平等と、言葉の使い分けはどこがどう違うのか、市民の皆さんにきちんと説明ができるのかなというような気がしています。

それから先ほど委員の方からありました。確かに一人ひとりのワークライフバランスを実現できる社会の中に、子育てのこと、介護のことを全部突っ込んでしまうというのはいかがなものかなと。これはこれで大きな課題なので、ワークライフバランスじゃなくて、子育て・介護におけるというところにあげた方がもっと分かりやすいのではないかなと、意見を聞いてそのとおりだと思いました。そのあたりを整理された方が良いのではないかと思います。

(事務局)

ワークライフバランスという言葉の基本目標のところからはのけてもいいですか。

(委員)

のけてもいいかもしれません。職場におけるワークライフバランスという、個別事業での取組でも良いように思います。

(事務局)

それを取組の方向性の方に。

(委員)

基本目標というよりは、取組の方向性で良いのではないかと個人的には思います。また、ワークライフバランスと、家庭におけるジェンダー平等と働く場におけるジェンダー平等というのがつながってこない。

(事務局)

はい。ワークライフバランスという言葉は取組の方向性の方に。育児・介護も含めて取組の方向性のところに項目を入れていく。

(委員)

言葉だけで理解してもらうためには、表現が大事だと思います。家庭におけるジェンダー平等の推進というところの裏には子育て・介護がありますよと言われてもピンとこない。働く場におけるジェンダー平等という、ワークライフバランスとはまた違うレベルの話のように思われる。だから、なかなかワークライフバランスと家庭におけるジェンダーと働く場におけるジェンダーが繋がってこないなというイメージがします。

(事務局)

3番の表現は、またちょっと考えます。

(委員)

私も広い意味ではこれでいいだろうと思います。でもすごく課題が多いというか、ほんとに一個一個、子育てにしても介護にしても課題が多いし、やらなきゃいけないことがとってもあつたりして、それらを全部見据えて、みんながワークライフバランスを実現できるといったときにイ

メージできるかといったら、やっぱりちょっと盛りだくさんで。2016ではそのあたり二つに分かれていますよね。同一の方がいいのかもしれないけど、一瞬で理解してもらったり、想像してもらったりというようなことになると、やっぱりもう少しとっつきやすい言葉というか、イメージしやすいような表現があった方がいいかもしれない。場合によっては、5つの目標じゃなくて6つに分ける必要があるのか、それとも違う工夫が必要なのか、今、ちょっと分からないのですが、少なくともこの3に全部の中身を入れるのは少し無理があるのかなと。言葉の選び方や何かで解決できるかもしれませんけど。検討はしていただけたいし、私もちょっと考えてみたいと思います。

(委員)

目標はもっとたくさんあっても構わないと思います。これだけ見たら2016の方がずっと分かりやすい。男女共同参画という意味では、2021のめざす将来像がなんとなく分かりにくいかなという印象を持ちました。

(委員)

補足でいいですか。その意見で、市民意識調査の4番の最後にも、市民の要望の中には介護とか育児分野のニーズが高いという結果もここに出ているので、やっぱりこの言葉というのはすごく大事じゃないかなと思うので、ぜひその分野は残してほしいなと思います。

(委員)

プラン2021を策定するうえで、今回の意識調査の結果がどこに反映されているのかというのをきちんと説明できるようにしていただけませんか。意識調査で、こういう課題を市民からいただいたので、それをこの2021に反映していますという形にしないと、それこそ税金の無駄使いと言われても仕方のないことになってしまう。

それと取組の評価尺度、何で評価するのかというのが見えてこない、例えば「一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう」はいいけど、これをどうやって評価するのというところが出てこない、達成できそうもない数値目標は絶対に掲げないように。絶対やりとげるところを目標に掲げて、市民が見ても確かにそうだと分かるようにしていただいた方が良いでしょう。また、5年後も今回と同じように未達成が発生しないようにした方がいいのではないという気はします。

(事務局)

説明したとおり、今年は4回委員会があるのですが、令和元年度の事業評価で2回とっています。その間でちょっとお時間をいただいて、数値目標だったり基本目標の言い回しだったりとか、お時間いただいていいですか。

(委員)

先ほど意見もあったように推進委員会としてこの目標を立てるのに、十分議論したうえで、委員会として責任がもてるよう、これだったらいける、その取組はいいねというところに、ある程度意見がまとまった方がいいのではないかと、私も5年後に居るのかどうか分からないですけど、やっぱり次の人に引継ぐにしても、こういうことでこの目標立てたのですよ、例えば認知症カフェがどうしてこの目標に関係するのか、やっぱりきちんと目標との関係を説明できる計画にした方が良いでしょう。

(委員)

そうだと思います。私は当然数値目標が出てくるのだと思っていましたが、それは次なのかな

って思っていたので。今の議論からいったら、数値目標を見据えながらやっておかないといけないことではないですか。何で計れるのかを考えつつ、当然やっていかないといけないことだと思うので、委員会の日程も含めて、事業をイメージしないといけませんから。そうじゃないとプランをつくる意味はないといったらいいか、あと1年もないわけですから、最終的に全部細かくはなくても、ぜひ今度のプランのときには数値目標のイメージも含めて、できれば数値の素案を作った方がいいのではないかと。その方がより、市民にとって身近ではっきりするものになって、伝わりやすいのではないかと思います。

(委員)

一つ、事務局にお願いがあるのですが、数値目標の件ですが、総括の資料を見ると、当初というのが平成27年の数値が出ていて、それに合わせて目標を立てているというイメージになっているのですが、結局全部の数値見ていると、単に27年度だけでは測れない部分、それ以前がどういう数値で、どういう経過をたどって、ここまで来ているんだということ、そういうことが分かるようなものがないと、数値目標は立てられないと思います。極端に言えば、令和2年度、今年の数値でそこから先の5年間決めるというのはちょっと無茶苦茶というか、無理があるので、結局これまでこういう数値をたどってきて、そのうえでの令和2年度の数値を基準として、ここから先5年間を考えましょうっていう形にしないと、単純に数値だけ、1年の数値だけ見据えても、ちょっと目標を立てづらいと思います。ですので、過去もさかのぼってしまうのですが、かなり前からの数字をきっちり出していく。これまでの流れでいくと、結局目標の立て方とかそういったことによって、それから個々の施策とかそういうことによって、まるっきり変わっているものもあるのですが、ある程度近いものから数字は引っ張り出してこられると思います。ですので、そういう形の準備もちょっとしておいていただきたいなと思います。

(委員)

SDGsをメインにこんなに書かなくてもいいのでは。内容が大事。

(委員)

たぶんSDGsは庁内だとか、執行部だとかそういうところにアピールしたいというところもあるのかなというふうに。それはそれでやってもいいですよ。市民向けに中身のあるところを。これはちょっと宣伝というか、そういうのにも基づいているというか、相手によってはいいと思うのですが。今、経年数値ってとても大事だと思うのですが、1年1年がとりづらい場合には、ある程度平均なり、5年括りとかでもいいかもしれないけど、それはすごい大事ですよ。数値目標の出し方というのが、だんだんと良くなってきていると思います。以前は、ただ別に表があっただけでしたけど、今回施策のところに入れていって、当初の数字も入れてくださいと私もお願いしたりしているのですが。そういうふうに簡単には変わらないとか、いろんなことがあって、それがあって、この5年でできそうなことっていうのは市民にもある程度理解してもらえるのではないかと思いますし、何より当事者の励みになるのではないかと思います。

(委員)

数値目標で、2016総括の概要のところ、達成度の状況というところにも書いてくださっているのですが、ここで悪化したり数値が悪かったりしたところは、そこに分野が書かれていて改善に向けた取組が必要であるというふうに書いているので、ぜひこの面を提示できるような形があればありがたいと思いますので、できているものよりはやはりできてないところの意見交換ができたらと思いますので、お願いします。

(委員長)

だんだんと後半になればなるほど議論しなきゃいけないことが増えてきたようには思いますが、どうでしょうか。もう一言。

(委員)

ちょっと細かいことですが、2016 総括の施策項目 1 の市の審議会等で女性委員がいない審議会数の表記があるのですが、ここの会のリストとかをこの委員会の中でシェアすることは可能ですか。ここの委員会が改善できた、改善できてないというのを見るというのは。

(委員)

過去にはそういう資料もいただいたことがあります。いろんな市の委員会でこれは何%とかいうのを書いたような。

(委員)

例えばこの4年間のなかで、この委員会はずっと改善されてないなとか。ここはできてきた、できてないというのをみて、より具体的に提案していった方がいいのかなと。数字だけで見ても僕らも分からないので。

(委員)

24 会はどこかということですよ。

(委員)

同じなのか、分からないですね。

(事務局)

改善がされて女性が増えた一方、例えば一人しかいないような会で女性が退任されるとすぐゼロになってしまったり、増えた一方で減ったり、差し引きで変わりながらこの数という感じです。

(委員)

はい。ありがとうございます。

(委員長)

その間のいきさつというか、委員会別のデータなんかも出していただけないかなと思うのですが。もう少し個別データ、質問があったところに関しては出していただきたいなど。あるいは質問がなくても多少出していただけるのが当然ではないのかなというテーマだと思うのですが、資料はもうちょっといただきたいと思います。令和元年度についての評価は継続しているので、今のところだけでなく、他にもいろんな質問があっているのですが、全く資料がなかったので、それも含めて、出せる資料を出していただきたいなと思います。

(事務局)

次の9月3日の会のときに資料をお出しするようにしたいと思います。

(委員長)

お願いしたいと思います。

それではまだ言い足りないという方もいらっしゃると思いますが、そろそろお時間が近づいてきたのですがいかがでしょうか。

ありがとうございます。いろんな意見が出たと思います。まだ議論を重ねたいところですが、

時間の都合もございますので、今回は以上としたいと思います。

最後に事務局の方から連絡事項等がございましたらお願いしたいと思います。

(事務局)

連絡事項を説明

(説明省略)

(委員長)

以上で、すべての議題が終了しました。限られた時間でしたが、今回も熱心にご審議いただき、有意義な会となったのではないかと思います。

これをもちまして、令和2年度第1回高知市男女共同参画推進委員会を終了したいと思います。ありがとうございました。

(午後3時57分終了)